

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600699		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 1階		
所在地	苫小牧市拓勇東町2丁目17番29号		
自己評価作成日	2022.3.30	評価結果市町村受理日	2022.5.12

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御家族と共に御入居されている御本人を支援出来るよう心掛けている ・季節の行事や誕生日会等を開催し楽しみを感じられる様据支援している

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年4月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR沼ノ端駅からバスで5分程の、幹線道路に面した住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。近くに公園や耳鼻科、コンビニエンスストアなどがあり、バス停が事業所前にあるなど利便性が高い。開設後1年の新築建物で、明るく清潔である。ユニット中心に居間と食堂があり、事務室や休憩室などの職員スペースも用意されている。広めの浴室には3方向から介助できる浴槽があり、各ユニット3つのトイレは広く、手すりも完備している。日々の記録にタブレット端末を使い情報を共有しやすくしている。一方、排泄記録などはすぐに記録できる手書きのものを残している。ケアマネジメントの面では、センター方式のアセスメントシートを使い、当初に家族から得られた情報に、生活の中で得られた情報を追加している。介護計画の作成にあたっては、毎月のモニタリングや家族の意見を参考にきめ細かな計画を作成している。家族への情報提供の面では、写真を多く載せた「たく遊便り」と本人の様子を記した手紙を毎月家族に送付している。また、同意を得た方は事業所のホームページにも利用者の写真を載せている。入浴支援の面では、利用者の体調や意向に沿って入浴時間や湯加減などを調整し、浴槽の壁を家庭的な色にして寛げるようにしている。丁寧なサービスが提供され、安心して生活できるグループホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所前のボードに理念を張り出し共通認識を持つよう努めている	独自の基本理念の3項目めに「地域の方々との交流を大切に」という文言を入れている。理念を玄関、事務所、各ユニットに掲示するとともに、日誌の上部に理念に沿った目標をあらかじめ印刷し、普段から意識するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことが出来ない	町内会には加入しているが、感染症の流行により現在は交流が難しい状況である。感染症収束後は盆踊りや運動会、ゴミ拾いなどの地域行事に参加したり、幼稚園児や小学生との交流も行いたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことが出来ない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は実施されていないが活動報告で事故報告、介護度や実際の取り組みや活動状況報告をしている	市、地域包括支援センター、町内会長、利用者家族が構成メンバーとなり、2か月ごとに文書により運営の報告を行っている。計画的なテーマの設定や意見収集までは行っていない。	年間を通して計画的にテーマを設定し、テーマに沿った資料も送付して意見収集や意見交換を行う取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中積極的にされていないが必要時には安全な環境を整え実施している	提出書類がある時は、管理者が直接市役所に出向いている。最近では予防接種の関連で市役所に相談した。地域包括支援センターから入居者の紹介を受けることがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず身体拘束研修を実施し3か月おきに不適切ケア会議、6か月おきに全職員で身体拘束研修を実施しカンファレンス会議でも課題にし共通認識をもち可能な限り本人の気持ちに添ったケアに努めている	身体拘束を行っておらず、不適切ケア防止委員会を3か月ごとに開催している。全員参加の身体拘束の勉強会を年2回開催し、事例検討を行っている。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りできる。出入りはセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議や不適切ケア会議等で課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護、成年後見人制度の必要としている入居者がいない為積極的に学んではいないが今後必要時に対応できるよう努めていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明および契約書を持ち帰って頂きゆっくりとお読み頂き同意を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には面会時やお電話でお話する機会があった時にはご本人状況をご説明し意見や意向をお聞きし日頃のケアや運営に取り組めるよう努めている	現在は管理者が主に電話やメールで家族の意見や要望を聞いている。意見や要望をタブレット上の「支援経過」の欄に記載し、共有している。毎月写真入りの「たく遊便り」と本人の様子を記した手紙を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプランの立案時に職員からの意見をユニットリーダーと共有するよう努めている	月1回のカンファレンスの前に運営全般についても話し合い、活発に意見交換している。来月までに管理者と職員の個人面談を行う予定としている。職員は、行事、感染症、環境整備、食材管理などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心が持てるよう資格所得の研修参加に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した研修で学べるよう課題を設定し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中積極的に参加出来ていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には必ずご本人と御家族に面談し各自に要望、意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減される様取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族の不安や困り事を共有しながら本人の生活がサポート出来るよう心掛けている 面会時やお電話等でもご相談頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、御家族、御本人の双方が納得が出来るような提案、相談に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は本人にして頂き。一方的ではなくどうしたらよいか等、共に考え提案し自己決定の場面が増えるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下によるリスク等の話は事前にさせて頂き御家族の精神的負担軽減に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中積極的に取り組めていない	親戚と手紙や電話のやりとり、オンライン面会を行っている利用者があり、訪問理美容とは別に、馴染みの床屋の訪問を受けた利用者もいる。協力医療機関への受診時に利用者が昔の知人に会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特技を生かしお互いが認めあえる関係が築けるよう心掛けている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況に合わせ対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見の尊重、自己決定を促しながら行うよう努めている	言葉での思いや意向の表出が難しい利用者の場合も、表情や問いかけの反応から把握している。センター方式のB-2、B-3シートで生活歴や趣味等を把握し、新たに得られた情報の追記も行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報や御家族、御本人にお聞きしながら日々の生活に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメントや会話や心身状況を観察し変化に合わせたケアが実施されるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や御家族の意向で出来るだけお聞きし、現状に適した計画が立案できるようケース会議を行えるよう努めている	毎月のモニタリング結果を参考に3か月ごとの計画更新時に会議を行い、意見を集約して計画を更新している。介護計画の目標に沿って日々の記録をタブレットに入力しているが、目標項目の番号や記号までは入力できていない。	ケアプランの目標項目の番号または記号の割り当てを工夫するとともに、番号または記号も記載しながら日々の記録を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録、業務日誌等を活用し情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を汲み取りコロナ禍の中で対応できる出来る事に取り組むよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中積極的に出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診対応を行い検査結果や服薬変更等を御家族に報告すると共に月2回訪問看護に相談し指示を仰いでいる	ほとんどの利用者は月1回または2か月に1回、協力医療機関に通院している。その他の通院は原則家族対応だが、家族が難しい場合は事業所で通院を支援している。受診内容をタブレットの「定期受診」の欄に記録している。	

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時提携している医療関係や薬剤師に相談できる体制作り、情報共有に努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供を行い御家族の意向を受け入れながら相談出来る体制作りやに努めていると共に医療関係と連携し情報共有している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に医療的行為が必要になった場合に説明を行っている日々の生活の中での体調の変化や対応、予測される事等も事前にお伝えし事業所での対応を説明している	利用開始時に、「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」に沿って事業所の方針を説明し、署名捺印を得ている。開設1年でまだ看取りの経験はなく、重度化した場合は医療行為の必要ない範囲での支援を行う方針としている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、災害訓練を入居者と共に実施している	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、防災会社の訓練指導を得ている。地域への協力依頼も進めている。地震時のケア場面別の対応について話し合いを進める方針である。救急救命訓練の受講はまだ十分に行えていない。	各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるように、取り組みを期待したい。感染症流行により実際の受講が難しい間は、eラーニング等を活用し救急救命を学ぶことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに反した言葉を使用しない様職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損ねないよう努めている	利用者は「さん」づけを基本に、本人の希望で愛称で呼ぶこともある。申し送りはイニシャルで行い、書類も適切に保管している。今後、全体の接遇研修も予定している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや意向をお聞きし自己決めてされるよう促すよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務時間帯によって職員側の動きになってしまっている事もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服や整容に清潔感が感じられる様心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはホールの掃除や調理の下準備や後片付けに関わりを持ちやりがいを感じられる様努めている	法人の献立を調理法を変えて食べやすくしたり、誕生日は本人の好きな出前の寿司やちらし寿司にすることもある。利用者も正月に餅を丸めたり、桜餅やべこ餅、クリスマスケーキなどを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てて個々の摂取状況に合わせて食べやすいよう工夫し提供している、摂取量は毎回記録し把握するよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを実施している 自身で出来る事はしてもらい磨き残しは仕上げ磨きを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者基本トイレでの排泄の促しを心掛け、排せつ誘導時、尿意確認を行い誘導、排泄記録での時間間隔の把握に努めている	自立している利用者も多いが、全員の排泄をタブレットと排泄表に記録し、個々に応じた声かけや誘導を行っている。夜間のみベッド上で排泄用品を交換する利用者もいる。手すりなど、トイレの設備面も充実している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調節を行うと共に牛乳、ヨーグルトや御家族からお預かりしている乳製品等を提供、排泄時の腹部のマッサージ等を実施するよう心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが受診や本人の意向で入られない場合、時間や曜日にとらわれず支援するよう心掛け、1週間に最低2回は入って頂くようにしている	日曜日以外の午後を中心に、一人週2回の入浴を支援している。入浴順や時間帯、湯加減など本人の好みに合わせ、職員と会話をしながら入浴を楽しんでいる。入浴を拒む場合は、入浴順や日にちを変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に応じて日中の臥床を促す等しているがソファで傾眠することを好まれている様子が見られている方がいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは提携しているふよう薬局で対応しているが毎日の提供準備は職員が実施し説明書をファイルにし把握出来るよう心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事(掃除、食事の下準備、後片づけ等)出来る事を行って頂けるよう心掛けている、季節の行事に参加して頂き気分転換し楽しめるよう心掛けている		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のほぼ実施出来ていないが車で紅葉見学には出掛けることが出来ている	普段は敷地内を散歩したり、庭の草取りやプランターの花や野菜に水やりをしている。感染症の流行のため外出する機会は少ないが、ドライブで紅葉見学に出かけている。現在、ドライブでの花見を計画している。感染症収束後は日帰り温泉や大型ショッピングセンターなどへの外出を計画したいと思っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品はホームの立替金で行っている 自身で買い物をする支援は出来ていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等本人が希望された場合は都度支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる様な環境作りを心掛けている	窓に面した居間と食堂を中心に居室が配置された造りで、大きなソファなどで利用者がゆったり寛げるようになっている。観葉植物や利用者と一緒に制作した鯉のぼりなど、季節感のある装飾がさり気なく施されている。トランプやボーリング、塗り絵など利用者が自由に楽しめる物も多く準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の空間や食卓テーブル等でくつろがれたり、自由に居室に戻り過ごされてる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで準備したものや御家族が準備された物や自身の馴染みの物や御家族と相談し追加して頂いた家具で整理された危険のない環境を整えている	居室には、クローゼットとベッドが備え付けられている。使い慣れた椅子やテーブルを置き、好きなぬいぐるみや家族の写真を飾っている。収納ボックスで使いやすく整理している利用者もいる。各入口には塗り絵作品も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口やトイレの入口に目印になるような工夫をし出来るだけ迷わない動きが出来るよう心掛けている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600699		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたく遊 2階		
所在地	苫小牧市拓勇東町2丁目17番29号		
自己評価作成日	2022.3.30	評価結果市町村受理日	2022.5.12

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御家族と共に御入居されている御本人を支援出来るよう心掛けている ・季節の行事や誕生日会等を開催し楽しみを感じられる様据支援している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0193600699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年4月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの事務所前のボードに理念を張り出し共通認識を持つよう努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことが出来ない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、直接の関わりを持つことが出来ない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は実施されていないが活動報告で事故報告、介護度や実際の取り組みや活動状況報告をしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の中積極的にされていないが必要時には安全な環境を整え実施している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時には必ず身体拘束研修を実施し3カ月おきに不適切ケア会議、6カ月おきに全職員で身体拘束研修を実施しカンファレンス会議でも課題にし共通認識をもち可能な限り本人の気持ちに添ったケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス会議や不適切ケア会議等で課題にし取り組んでいる		

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護、成年後見人制度の必要としている入居者がいない為積極的に学んではないが今後必要時に対応できるよう努めていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭説明および契約書を持ち帰って頂きゆっくりとお読み頂き同意を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には面会時やお電話でお話する機会があった時にはご本人状況をご説明し意見や意向をお聞きし日頃のケアや運営に取り組めるよう努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス会議やプランの立案時に職員からの意見をユニットリーダーと共有するよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安解消、向上心が持てるよう資格所得の研修参加に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に適した研修で学べるよう課題を設定し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中積極的に参加出来ていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には必ずご本人と御家族に面談し各自に要望、意向を伺い初期プランに取り入れ入居時の不安が軽減される様取り組んでいる			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族の不安や困り事を共有しながら本人の生活がサポート出来るよう心掛けている 面会時やお電話等でもご相談頂けるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向を伺い、御家族、御本人の双方が納得が出来るような提案、相談に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は本人にして頂き。一方的ではなくどうしたらよいか等、共に考え提案し自己決定の場面が増えるよう努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活レベルの低下によるリスク等の話は事前にさせて頂き御家族の精神的負担軽減に努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中積極的に取り組めていない			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特技を生かしお互いが認めあえる関係が築けるよう心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状況に合わせて対応している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見の尊重、自己決定を促しながら行うよう努めている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者からの情報や御家族、御本人にお聞きしながら日々の生活に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々のアセスメントや会話や心身状況を観察し変化に合わせたケアが実施されるよう努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や御家族の意向で出来るだけお聞きし、現状に適した計画が立案できるようケース会議を行えるよう努めている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録、業務日誌等を活用し情報共有に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を汲み取りコロナ禍の中で対応できる出来る事に取り組むよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中積極的には出来ていない			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理等も含め定期受診や緊急受診対応を行い検査結果や服薬変更等を御家族に報告すると共に月2回訪問看護に相談し指示を仰いでいる			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時提携している医療関係や薬剤師に相談できる体制作り、情報共有に努めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供を行い御家族の意向を受け入れながら相談出来る体制作りにも努めていると共に医療関係と連携し情報共有している			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に医療的行為が必要になった場合に説明を行っている日々の生活の中での体調の変化や対応、予測される事等も事前にお伝えし事業所出の対応を説明している			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や異物除去のマニュアルを作成し対応出来るよう心掛けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難、災害訓練を入居者と共に実施している			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちに反した言葉を使用しない様職員間で共有し個人情報保護、プライバシーを損ねないよう努めている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや意向をお聞きし自己決めてされるよう促すよう努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせるよう支援しているが職員数や勤務時間帯によって職員側の動きになってしまっている事もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洋服や整容に清潔感が感じられる様心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはホールの掃除や調理の下準備や後片付けに関わりを持ちやりがいを感じられる様努めている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は運営協力会社の管理栄養士が立てて個々の摂取状況に合わせて食べやすい工夫し提供してる、摂取量は毎回記録し把握するよう努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを実施している 自身で出来る事はしてもらい磨き残しは仕上げ磨きを実施している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者基本トイレでの排泄の促しを心掛け、排せつ誘導時、尿意確認を行い誘導、排泄記録での時間間隔の把握に努めている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調節を行うと共に牛乳、ヨーグルトや御家族からお預かりしている乳製品等を提供、排泄時の腹部のマッサージ等を実施するよう心掛けている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決められていないが受診や本人の意向で入られない場合、時間や曜日にとらわれず支援するよう心掛け、1週間に最低2回は入って頂くようにしている			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況に応じて日中の臥床を促す等しているがソファーで傾眠することを好まれている様子が見られている方がいる			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは提携しているふよう薬局で対応しているが毎日の提供準備は職員が実施し説明書をファイルにし把握出来るよう心掛けている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事(掃除、食事の下準備、後片づけ等)出来る事を行って頂けるよう心掛けている、季節の行事に参加して頂き気分転換し楽しめるよう心掛けている			

ふれあいの里グループホームたく遊

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のほぼ実施出来ていないが車で紅葉見学には出掛けることが出来ている			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品はホームの立替金で行っている 自身で買い物をする支援は出来ていない			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等本人が希望された場合は都度支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる様な環境作りを心掛けている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前の空間や食卓テーブル等でくつろがれたり、自由に居室に戻り過ごされてる			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで準備したものや御家族が準備された物や自身の馴染みの物や御家族と相談し追加して頂いた家具で整理された危険のない環境を整えている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口やトイレの入口に目印になるような工夫をし出来るだけ迷わない動きが出来るよう心掛けている			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームたく遊

作成日：令和 4年 5月 11日

市町村受理日：令和 4年 5月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランの目標項目の番号または記号の割り当てを工夫するとともに番号または記号も記載しながら日々の記録を作成することを期待したい	全職員が各ユニットの入居者一人ひとり目標に向けたサービス内容を把握する	サービス内容にアルファベット(a.b.c..)で記号の割り振りをしプランのサービス提供時のケース内容の頭に記載し日々の記録を作成する	3カ月
2	35	各職員が3年に1回程度の、救急救命訓練を受講できるよう、取り組みを期待したい。感染症流行により実際の受講が難しい間は、e-ランニング等を活用し救急救命を学ぶことを期待したい	全職員が救急救命訓練が出来るよう取り組む	PCのデスクトップに救急救命訓練の動画を準備し、全職員に動画とe-ランニングでの研修を実施に取り組む	6カ月
3	4	年間を通して計画的にテーマを設定しテーマに沿った資料も送付して意見収集や意見交換を行う取り組みを期待したい	運営推進会議で年間を通してテーマを設定し資料を準備し意見収集する	感染流行な為開催でない間は、資料など送付し意見の収集、交換を返信して頂くよう取り組む	6カ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。